

インフルエンザA型(H1N1)

< 第 11 報 >

2009年6月5日 午前9時現在

1. 世界の感染状況

新型インフルエンザA型(H1N1)の世界の感染者数が6月3日、2万人を突破した。世界保健機関(WHO)の3日時点の集計では1万9,273人となっているが、その後、米疾病対策センター(CDC)が最新の感染者数(感染疑い濃厚を含む)を発表し、前回の集計より1,000人以上が増加したため、2万人を超えた。国内の感染者数も410人となった。死者の数はWHOの集計で、4カ国で計117人となっている。感染者が最も多いのは米国の1万1,054人で、世界全体の半数以上を占めている。米CDCでは、感染が報告されているのは実際の感染者数の20分の1と見ており、この推定が正しければ、実際の感染者数は約20万人に達している計算になる。

これから季節性インフルエンザの流行期、冬を迎える南半球でも感染が拡大している。オーストラリアでは急速に感染が広がっている。同国の感染者数は5月27日の39人からわずか1週間で501人まで増加、日本を抜いて世界4番目となった。チリでは2日、南米で初めての死者が報告された。

感染が確認された国・地域の数も、第10報(5月22日)の44から67に増えた。エジプトで感染が確認され、アフリカ大陸では初の感染例となった。エジプトでは強毒性鳥インフルエンザウイルスH5N1の人への感染・死亡例が今も報告されている。同じくH5N1の人への感染・死亡例が報告されているベトナムでも今回のH1N1感染が報告された。強毒のH5N1と、今回のH1N1の接点が増えると、両ウイルスがブタ等の体内で変異し、強毒性の新しいインフルエンザウイルスが生まれる危険性が指摘されている。

感染の拡大が続いていることから、WHOのフクダ事務局長補代理は2日、新型インフルエンザの警戒レベルをパンデミック(世界的大流行)を意味する最高レベル「フェーズ6」に引き上げる可能性を示唆した。オーストラリア、日本、英国などで感染が数百人単位となってことを受け、現在はフェーズ5からフェーズ6への「移行期」であるとの認識を示した。

(世界の感染者数等の詳細は別添「参考資料1」参照)

2. 日本国内の感染状況

国内の感染も依然として続いている。6月4日夕方の集計では、全国16都府県で410人の感染が確認されている。第10報に比べ、111人増加した。新たに報告される感染者の多くは米国など海外の感染国からの帰国者だが、2日には米国から帰国した女性と同じ食事会に出席した東京都と千葉県の子供3人が2次感染したことが明らかになった。

また、同4日の厚生労働省の発表によると、日本における新型インフルエンザの最初の発症者は5月5日の神戸の男子高校生と判明した。この生徒は5月6日に神戸市の医療機関を受診し、簡易検査でA型のインフルエンザと診断されていたが、このほどそれが新型インフルエンザであ

ったことが判明したものの、この生徒の感染ルートについては引き続き疫学調査を実施している。
なお、日本におけるこれまでの発症者のピークは5月17日の73人で、22日以降は5人前後で推移している。

このような新型インフルエンザの発症の落ち着きを反映してと思われるが、厚生労働省は、6月4日、電話相談窓口(03-3501-9031)の受付を6月6日以降、平日の午前10時から午後6時に縮小すると発表した(従来は午前9時から午後9時まで)。

(国内の感染者数等の詳細は別添「参考資料2」参照)

3. 政府による対処方針見直し後の動き

政府は5月22日に新型インフルエンザ対策の基本的対処方針を見直したが、地方自治体や企業の中には、新型インフルエンザへの対応を緩める動きが見られた。その一方で、海外での感染拡大が続いているため、現在も海外出張を原則として見合わせるなどの対策を継続している企業もある。

対策緩和の主な動き

大阪府	都市機能回復を宣言(学校再開等)
神戸市	安心宣言(学校再開等)
外務省	メキシコへの「渡航延期勧告」を「注意喚起」に
自動車メーカー	海外出張を再開
電機メーカー	帰国していた駐在員家族のメキシコ行きを解禁
電機メーカー	北米からの帰国者の一時自宅待機を解除
航空会社	客室乗務員のマスク着用義務を解除
関西の鉄道各社	駅員等のマスク着用義務を解除
東京都	関西地方への修学旅行規制を撤廃

4. ワクチンの備蓄

6月4日厚生労働省は2000万人分の新型インフルエンザ用ワクチンを製造する方針を固めた(2000万人分は国民の6人に1人が接種できる量)。新型インフルエンザに感染した場合に重症化しやすい慢性疾患(糖尿病等)がある人には十分行き渡る量を確保できるとみている。7月に製造を開始し、11月ごろに接種が可能になる見通し。

一方、厚生労働省は、季節性インフルエンザのワクチンについては例年(約5000万人分)と比較すると少ないものの、一定量(3000万~4000万人分)は確保できると判断している。なお、新型インフルエンザ用ワクチンは、季節性用ワクチンと併用しても害はないとされている。

また、厚生労働省はインフルエンザの治療薬であるリレンザの有効期限を、従来の5年から7年に延長することを決め、全都道府県に通知した。リレンザは国や各都道府県が備蓄を進めており、現在、468万人分の備蓄量がある。(同じく、インフルエンザの治療薬であるタミフルの備蓄量は3000万人分と言われている。)

5. 今後の可能性

現在流行している新型インフルエンザ H1N1 の特性については未知な部分が残されているが、過去のパンデミック（スペイン風邪、アジア風邪、香港風邪）の事例では、必ず第 2 波の感染拡大が発生している。また、第 2 波のほうが、第 1 波より強毒化する可能性がある。これからインフルエンザの流行期に入る南半球において、他のウイルスと混ざり合うことで毒性が強化され、毒性が強化されたウイルスが回って北半球で流行することを想定している専門家もいる。したがって、これまでの国内での感染が比較的軽度で済んでいるからといって、秋以降も決して油断することのないよう専門家らは警告している。

各企業においては、的確な対応ができるよう引き続き対策を検討・実施して今年の冬に備える必要がある。

【参考資料1：世界の感染状況】

世界の感染確定症例・死亡症例数(WHO 6月3日 発表)

日 時	6月3日	第10報時点5月22日
感染確定国・地域数 ¹	67 カ国	44 カ国 ²
国 名	感染症例(死亡症例)	感染症例(死亡症例)
米国	10,053 (17)	5,764 (10)
メキシコ	5,029 (97)	4,008 (78)
カナダ	1,530 (2)	719 (1)
オーストラリア	501 (0)	9 (0)
日本	385 (0)	299 (0)
英国	339 (0)	112 (0)
チリ	313 (0)	25 (0)
スペイン	180 (0)	111 (0)
パナマ	155 (0)	73 (0)
アルゼンチン	131 (0)	1 (0)
中国	69 (0)	8 (0)
コスタリカ	50 (1)	25 (1)
エルサルバドル	41 (0)	6 (0)
韓国	41 (0)	4 (0)
ペルー	40 (0)	16 (0)
エクアドル	39 (0)	8 (0)
イスラエル	33 (0)	7 (0)
イタリア	30 (0)	9 (0)
ドイツ	28 (0)	15 (0)
フランス	26 (0)	16 (0)
ブラジル	20 (0)	9 (0)
コロンビア	20 (0)	12 (0)
クウェート	18 (0)	-
フィリピン	16 (0)	1 (0)
ウルグアイ	15 (0)	-
グアテマラ	14 (0)	4 (0)
ベルギー	13 (0)	5 (0)
ドミニカ共和国	11 (0)	-
ニュージーランド	10 (0)	9 (0)
スイス	10 (0)	1 (0)
シンガポール	9 (0)	-
スウェーデン	7 (0)	3 (0)
ギリシャ	5 (0)	1 (0)
パラグアイ	5 (0)	-
ルーマニア	5 (0)	-
キューバ	4 (0)	4 (0)

国名	感染症例(死亡症例)	感染症例(死亡症例)
フィンランド	4 (0)	2 (0)
アイルランド	4 (0)	1 (0)
オランダ	4 (0)	3 (0)
ノルウェー	4 (0)	2 (0)
ポーランド	4 (0)	2 (0)
トルコ	4 (0)	2 (0)
ボリビア	3 (0)	-
ロシア	3 (0)	-
ベネズエラ	3 (0)	-
ベトナム	3 (0)	-
レバノン	3 (0)	-
ホンジュラス	2 (0)	1 (0)
ジャマイカ	2 (0)	-
マレーシア	2 (0)	2 (0)
ポルトガル	2 (0)	1 (0)
スロバキア	2 (0)	-
タイ	2 (0)	2 (0)
オーストリア	1 (0)	1 (0)
バハマ	1 (0)	-
バーレーン	1 (0)	-
キプロス	1 (0)	-
チェコ	1 (0)	-
デンマーク	1 (0)	1 (0)
エストニア	1 (0)	-
ハンガリー	1 (0)	-
アイスランド	1 (0)	-
インド	1 (0)	1 (0)
エジプト	1 (0)	-
ブルガリア	1 (0)	-
ニカラグア	1 (0)	-
合計	19,273 (117)	11,308 (90)

新たに感染が確認された国・地域

感染症例数が増加した国・地域

上記合計には、台北で確認された感染症例数 14 人と死亡症例数 0 人が含まれます。

1 感染確定国・地域数は SJRM にて集計しております。

2 第 10 報では中国(本土)と香港を別地域として集計しましたが、第 11 報では中国一つとしてまとめて集計しております。

【参考資料2：国内の感染状況】

日本の感染確定症例・死亡症例数(日本時間 6月4日午後5時現在)

日 時	6月4日	第10報時点 5月22日
感染確定都道府県数	16 都道府県	7 都道府県
都道府県名	感染症例(死亡症例)	感染症例(死亡症例)
兵庫	198 (0)	152 (0)
大阪	159 (0)	136 (0)
東京	9 (0)	2 (0)
埼玉	4 (0)	1 (0)
神奈川	6 (0)	1 (0)
滋賀	3 (0)	1 (0)
京都	2 (0)	1 (0)
千葉	6 (0)	-
福岡	1 (0)	-
静岡	5 (0)	-
和歌山	1 (0)	-
新潟	1 (0)	-
山梨	1 (0)	-
愛知	3 (0)	-
山口	2 (0)	-
徳島	1 (0)	-
成田空港(検疫)	8 (0)	5 (0)
合計	410 (0)	299 (0)

新たに感染が確認された地域
感染症例数が増加した地域

SJRM 集計